

くざかい  
まちに入り込み作品を創る！“区界”の謎から現れる新しい「公共」の姿  
としまくざかい  
劇作家・岸井大輔によるトーク&ツアー「豊島区界」のご案内

～多彩なゲストとのトークや散歩から、新たなまちが見えてくる～  
1月15日(火)～2月14日(木)までの1か月、豊島区各所で

**独創的手法で創り出す、人が集う「テーブル」=新しい公共とは？**

東京都と豊島区、東京文化発信プロジェクト室、およびNPO法人アートネットワーク・ジャパンが進める東京アートポイント計画「としまアートステーション構想」では、豊島区の多様な場所で、アーティストによるプロジェクトを展開しています。アートを使って、まちの新しい側面にスポットを当て、そこに暮らす人々を刺激する試みです。

その一環として今年度、先進的コンセプトで作品を創る劇作家・岸井大輔が、豊島(Toshima)の可能性(Able)を探るプロジェクト『TAbLe(テーブル)』を展開してきました。それは、まちの可能性を話し合うため、いろいろな人が一緒に集う「テーブル」を、まちの様々な要素から探し、つくり、考えるプログラム。独創的な演劇の手法を活用しながら、「新しい公共」のあり方を示そうとするものです。

そのため岸井は、地域の歴史や地理、生活の特徴が顕著に表れる場として“区界”に着目。昨秋、参加者(「キャスト」)達が区界や昔の村界等を歩き、行動や体験をツイッター等で報告する調査プロジェクト「diVISION」を実施しました。結果、多彩で興味深い「発見」と、新たな「謎」やテーマが明らかになりました。

そこで今回、調査成果の発表と、新たな疑問を解き明かすことを目的に、1か月にわたり連続トーク&ツアー・イベント、「豊島区界」を下記の内容で開催いたします。

**個性豊かな10人以上のゲストと、他では体験できない、散歩ツアー！**

「工場萌え」ブームを巻き起こした写真家・大山顕氏や、人文地理学のオーソリティ・箸本健二氏をはじめ、まちを独特の視点で見る個性豊かな10人以上のゲスト。そして、他では体験できないユニークな切り口で、選ばれた場所を、岸井大輔のウィットに富んだ解説を交えながら巡る、散歩ツアー。

“区界”を辿るとなぜ、見えなかったものが見え、まちの新たな魅力を発見できるのか？『TAbLe』の真の姿とは一体何なのか？この一見ゆるやかなイベントから、人と人をつなぐ「新しい公共」としての「テーブル」がその姿を現そうとしています！しかもそれは、実はもっとも前衛的な演劇的試みでもあります。このまたとない機会を、ぜひご取材いただきますようお願い申し上げます。

**【実施概要】**

- トーク:** 区界で見つけた疑問をその道の専門家に伺い、今後のプロジェクトを展開するための対話を行います。区界近くにある、各トークに合った特徴ある場所を実施します。
- 散歩ツアー:** 「diVISION」調査で見つけた豊島区内外の区界近くにある施設や地域資産を巡る散歩ツアー。拠点の代表にお話を伺ったり、地域で活躍する方にご案内いただきます。  
※個々のトークとツアーの詳細は、別添資料をご覧ください。
- 期間:** 平成25年1月15日(火)～2月14日(木)の週末を中心に計23プログラムを実施。
- 料金:** 各回500円(その他実費がかかる場合は参加者負担)  
※一部、無料プログラム、別途料金設定のあるプログラムがあります。
- 申込:** としまアートステーション構想 事務局 URL <http://toshima-as.jp>  
〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷 3-1-7 千登世橋教育文化センターB1F  
としまアートステーション「Z」  
TEL:070-5579-8538(PHS) 電話受付 日～水曜日 11:00～18:00  
E-mail: [toiawase@toshima-as.jp](mailto:toiawase@toshima-as.jp)



『Table』のためのリサーチプロジェクト「diVISION」で区界を調査中、ツイッターで位置情報を投稿することにより、Google Map 上に豊島区の区界を視覚化している。

## Table

豊島区は多様だ。異なる人が持ち味を生かしたまま出会えば、オモシロいことが起きる。  
なので、違いを生かしたまま出会えるようにしてみたい。  
集まる人によって支えられているが、集まる人の間にあって違いを守る、テーブルのような  
結果、としま (T) に潜在する可能性 (Able) が形をなすだろう。

————— 岸井大輔

多様な人が住み、文化活動も盛んな豊島区は、一方でそれぞれが孤立しているように見える場合もあります。  
岸井大輔が、地域の関係性が集中する“区界”を歩いて見つけた様々な“発見”。それらを踏まえ、既にある場所や施設、お店、あるいは人と人との関係性などに、改めて人と人をつなぐ機能を見出し、『Table』とすることで、まさに潜在的にあったネットワークが、新たなかたちとなって見えてくるかもしれません。

この画期的プロジェクトと、今回のツアー&トーク「豊島区界」について、本人に伺いました。

### ■「diVISION」を通して見えてきた、豊島区に必要な『Table』

豊島区は日本で一番人口密度が高く、交通の便がよく、多くの文化事業も行っています。しかし、そんな恵まれた地域にも関わらず、その文化事業がなかなか住民に広まっていけない。ネットワークが切れている。そこでまちを歩いて調べてみると、近隣や同業者の広域的なつながりよりも、昔の村界や神社の氏子の境が優先されている場合があることがわかりました。

もうひとつは、区の名前の通り豊かで恵まれすぎているのかな、ということ。豊かであることと幸せであることは異なるのではないか。では、豊かさと幸せを結びつけるにはどうすればいいかと言うと、哲学者のハンナ・アーレントは「話をすればいい」と言っています。そこで話ができれば「テーブル」を創ろうと思ったんです。アーレントは、「人々を関係させると同時に分離する」（くっつきすぎも衝突もさせない）ものとして、「公共」を「テーブル」に例えています。東京、豊島区の「T」、そして可能性を示す「Able」で『Table』。豊島区の未来の可能性を、多種多様な人々が話し合う場なんです。



『Table』のための調査「diVISION」の様子。

『Table』をつくるためのリサーチプロジェクト「diVISION」は、豊島区の区界を調

査したものです。区界は、地形や歴史を踏まえた暮らしの様々な面で、必ず何らかの「テーブル」が形作られた場所だからです。例えば、ある商店街では3軒だけが別の区で、道の舗装も商店街名もそこだけ違います。しかし、今では一緒に仲良くお祭りをやっています。そこに至るまでには、きっと異なる人々が集い話し合う場「テーブル」が生まれていたと思うんです。そういった潜在的ネットワークを発見し、提示していくことが、アーティストの機能だと考えています。



写真左の看板には豊島区管理の文字が。しかし反対側の花壇は板橋区が管理。同じ公園でも見えない境で分かれています。

いろいろ興味深い発見を得るとともに、あった方がいいと思う『TAbLe』が何種類か見えてきました。たとえば「学校区」。OB・OG の絆が強い小学校がありますので、TAbLeと見なすことで異なる学校区をつなぐネットワークができます。学校区には多様な人がいるので、そこからさらにネットワークが広がる可能性もあります。

## ■多彩なゲストを招いて“区界”の謎に迫るツアー&トーク・ワークショップ

1月15日(火)～2月14日(木)まで、豊島区内各所で、「diVISION」の成果発表と、調査中に不思議に思った疑問を解き明かすためのツアーやトーク・ワークショップを、多彩なゲストを招いて行います。

例えばツアーでは、廃校をレンタルスペースや事務所として活用している「みらい館大明」、劇場、稽古場、様々なクリエイションの場などアーツファクトリーとして活用している「にしすがも創造舎」を見学するツアーを開催します。「みらい館大明」は戦後何十年のOB・OGの活動の積み重ねの上に成り立ち、豊島の民間の力が集まっているもの。一方「にしすがも創造舎」はNPO法人のディレクションでアーティストが集まり、発信力・求心力を持つコンテンツを作っています。どちらもうまく機能しているもので、この2つが常につながるTAbLeができると、おもしろいことが起こりそう。このツアーは、まちのネットワークを考えている方にとっても参考になると思うし、おもしろいと思います。

トークセッションもここでしか聞けないラインアップです。これからのまちや暮らしのあり方に興味のある方、演劇のあり方に興味がある方、そして、まちあるきが好きという方にも、ぜひ参加していただきたいですね。

### プロフィール

#### 岸井大輔(劇作家)

1970年生まれ。演劇の素材を人間の集団ととらえ、他ジャンルで追究された先進的でコンセプチュアルな創作方法による形式化が、演劇においても可能かを追求。演劇の素材を「複数の人間」と規定して、生活や社会に直接関わる独創的な作品群を制作発表している。2008年よりPLAYWORKS主宰。代表作『P』『potalive』『まちから創る』『文(かきことば)』『東京の条件』



劇作家 岸井大輔

#### ■「diVISION」としまアートステーション構想のためのリサーチプロジェクト:

<http://divisiontable.web.fc2.com/>

#### としまアートステーション構想／東京アートポイント計画／東京文化発信プロジェクトについて

このプログラムは、「としまアートステーション構想」事業の一環です。「としまアートステーション構想」とは、豊島区民をはじめ、アーティスト、NPO、学生など多様な人々が、区内各地域の様々な所で自主的・自発的にまちなかにある地域資源を活用したアート活動の展開を可能にする「環境システムの構築」と、「コミュニティ形成の促進」を目的としています。人と人のつながりのある地域には安心感があります。豊島区をそんなまちにしてゆくために「アート」を用いた試みです。雑司が谷にあるとしまアートステーション「乙」を拠点に活動を展開していきます。

本事業は豊島区文化政策推進プランのシンボルプロジェクトである「新たな創造の場づくり」、並びに、東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指す東京文化発信プロジェクト事業「東京アートポイント計画」の一環として、NPO法人アートネットワーク・ジャパンとの連携により実施しています。

主催:

東京都、豊島区、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、特定非営利活動法人アートネットワーク・ジャパン

## 【劇作家・岸井大輔によるトーク&ツアーイベント「豊島区界」(としまくざかい)後期プログラムのご案内】

◆トーク&ツアースケジュール一覧(後期 2月1日～2月14日) ※前期1月15日～2月14日はチラシをご覧ください。

最新情報はウェブサイトにてご確認ください。(http://www.toshima-as.jp/projects/2012/table.html)

プログラム	ゲスト(敬称略)	場所	日時	参加費	概要
【散歩】 長崎村／池袋村『谷端川緑道で挨拶をする』by 馬淵かなみ(diVISION step1・8・11・14リサーチメンバー)	—	待合せ場所:15:00 東京メトロ要町駅改札前	2月4日(月) 15:00-17:00	500円	diVISIONリサーチメンバーのメインキャストである馬淵かなみが、調査期間毎日通った谷端川緑道公園を案内します。
【トーク】 『場を開く』	アサダワタル(日常編集家)×北澤潤(アーティスト)	ジェシカ(住所・アクセス:申込者におのみお伝えします。)	2月4日(月) 19:30-21:00	1000円 (1ドリンク お菓子付き)	diVISIONリサーチメンバーが豊島区に引越し、イベントスペースのあるシェアスペースを開きます。「住み開き」という概念を発明したアサダワタルさんと、コミュニティスペースにフィックな作品を展開している北澤潤さんを招いて、オープンな場をはじめることをテーマにトークを行います。
【たずねる】 『郷土資料館学芸員に』	秋山伸一・橋口定志(豊島区立郷土資料館学芸員)	男女平等推進センター(エポック10)研修室(2)(豊島区西池袋2-37-4勤労福祉会館3F/JR池袋駅南口から徒歩7分)	2月13日(水) 19:00-20:30	500円	区界には、その由来を江戸時代以前にまでさかのぼれるところもあります。実際に発掘調査を行い、数々の文献にも精通している、歴史学・考古学の専門家とともに歴史の面から区界を考えます。お話の後は郷土資料館の見学も行います。
【散歩】 新宿区 散歩 目白界限編(仮) by 飯景美(diVISION step6・23リサーチメンバー)	—	待合せ場所:13:00JR目白駅改札前	2月14日(木) 13:00-17:00	500円(飲食費は各自ご負担ください)	豊島区と新宿区の区界にそって広がっている目白・落合地区。そこには目白文化村などに代表される、戦前の“新しい理想の生活”がありました。当時の名残である作家のアトリエや教会をたどります。
【散歩】【トーク】 『区界を遊ぶ』	大山顕(写真家) ×岸井大輔(劇作家)	【散歩】待合せ場所:18:00 JR巣鴨駅改札前 【トーク】会場:巣鴨第三区民集会所(2階)(豊島区巣鴨1-44-3/JR巣鴨駅から徒歩6分)	2月14日(木) 散歩:18:00～ トーク:19:00-21:00	500円	【散歩】様々なまちの鑑賞プロジェクトをしてきた大山顕さんと、文京区と豊島区の区界を歩きます。 【トーク】大山さんとさらなる区界の遊び方を探ります。